

現代の社会課題と大学の役割

斉藤 卓也(情報・システム研究機構 副機構長)

講師略歴

東京大学工学部電気工学科卒業、科学技術庁(現文部科学省)入庁。カリフォルニア大学サンディエゴ校留学、ライフサイエンス課長補佐、在オーストラリア日本大使館一等書記官、文部科学省非常災害対策センター(EOC、福島原発事故対応)、会計課予算企画調整官、山口俊一内閣府特命担当大臣(科学技術、IT、クールジャパン)秘書官、基礎研究推進室長、徳島大学副学長、文部科学省産業連携・地域支援課長、人材政策課長、理化学研究所経営企画部長などを経て現職。

プログラム概要

コロナのパンデミックは終息しましたが、国際状況の大きな変化、地球温暖化、少子化・高齢化など、様々な社会課題がある中、AIなど最先端技術は急速に進展しています。

変化の激しい現代において、大学の置かれた状況、日本の科学技術イノベーションの状況、AIなど最先端の科学技術の動き、関連する政策などを俯瞰するとともに、今後の方向性、大学に期待される役割、私たちが意識、行動すべきことなどを考えていきたいと思います。

もちろん明確な答えは存在しませんが、関連する様々な組織、ポストで仕事をしてきた経験から考えてきた事をお話ししたいと思います。皆様が今後の仕事を進めるにあたり、少しでも参考になれば幸いです。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

・関心のある教職員

(四国の国立大学への出向経験のほか、他省庁、日本大使館、国立研究所など様々なポストを経験してきた文部科学省職員から見た大学の立ち位置や可能性についての話に関心がある方)

到達目標

1. 大学における日々の業務の意味や、今後の可能性を改めて意識することができる。